

令和 3 年 度

教育委員会定例会（9月）議事録

四條畷市教育委員会事務局

## 1 開催日時・場所

令和3年9月22日（水）10時00分から11時25分まで  
四條畷市役所 東別館2階 201会議室

## 2 出席委員

教 育 長	植田 篤司
教育長職務代理者	山本 博資
委 員	竹内 千佳夫
委 員	佃 千春
委 員	河田 文

## 3 事務局出席者

教 育 部 長	阪本 武郎	教 育 部 次 長 兼 学 校 教 育 課 長	木村 実
教育部副参事兼学校 給食センター所長	賀藤 久道	学校教育課人権教 育・教科指導担当課 長兼教育センター長	花岡 純
教育総務課長	板谷 ひと美	生涯学習推進課長	安田 美有希
青少年育成課長	勝村 隆彦	教育部上席主幹兼主任 (生涯学習推進担当)	村上 始
公民館長兼主任	神本 かおり	図書館長兼主任兼田原 図 書 館 主 任	田中 学

## 4 議事録作成者 教 育 総 務 課 木邨 勇貴

## 5 付議案件

報告 第15号	四條畷市教育振興基本計画（素案）の策定について
報告 第16号	特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
報告 第17号	令和4年度大阪府新学力テスト（愛称：小学校すくすくウォッチ）の参加について
その他	新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応について

植田教育長

それでは只今から、9月の教育委員会定例会を開催いたします。  
四條畷市教育委員会会議規則第5条第2項の規定に基づき、議事録署名者の指名を行います。  
本日の議事録署名者は、河田委員にお願いいたします。  
それでは議事に入ります  
報告第15号 四條畷市教育振興基本計画（素案）の策定についてを議題といたします。  
事務局から本件の内容説明を願います。

板谷教育総務課長

四條畷市教育振興基本計画（素案）の策定についてご報告いたします。  
本年度策定予定の四條畷市教育振興基本計画について、これまでの定例会にて策定方針及び枠組み、骨子に関するご意見をいただいたところですが、今般、部内管理職で組む策定委員会にて計画（素案）を取りまとめましたので、その内容を報告いたします。  
資料の1ページをお開きください。  
第1章 計画の意義では、計画の背景と趣旨を記載しております。人口減少、少子高齢化の進展、情報化やグローバル化など、社会情勢の大きな変化のなか、これまでの教育振興ビジョンに基づく取組みのさらなる充実と発展が必要であり、また、自然災害や感染症の世界的流行、急速な技術革新に応じた新しい方針策定の必要性を踏まえ、本計画を策定することを述べています。  
次に、3ページの計画の位置づけでは、市長により策定された教育大綱の基本理念を参酌し、第6次総合計画に定める施策の方向性を踏まえ取りまとめるものであり、教育基本法第17条第2項の規定する計画に位置付けることを明記しております。  
次に、4ページの策定にあたっての基本的な考え方では、(1)わかりやすく、共感が得られる計画、(2)社会変化に対応できる計画、(3)継続性のある計画、以上の3つのコンセプトのもと、計画を取りまとめることを記載しております。  
次に、5ページの計画の構成では、本計画は教育における長期のビジョンを掲げるものであることから、基本理念に将来像（夢）を掲げ、基本方針には中長期的な施策の方向性を示すこととし、具体的、短期的な取組みは施策ごとに分野別計画やアクションプランを定め、教育振興基本計画と機能分担することを説明しております。  
次に、6ページ 計画期間については、国の教育振興基本計画が掲げる2030年以降の社会を展望した教育の実現を通過点とし、第6次総合計画の第2フェーズを到達点に定め、令和4年度から17年度までの14年間としつつ、7年度と12年度をめどに必要な見直しを行います。

ここまでが、令和3年4月の教育委員会定例会でご審議いただいた（仮称）四條畷市教育振興基本計画策定方針に基づく内容となっております。

次に、7ページ 第2章 教育振興ビジョンに基づく取組みの検証では、就学前教育、学校教育、社会教育、ハード整備の分野ごと、平成26年度以降の取組みの概要をまとめております。

なお、施策ごとの主な成果と課題、達成度などの詳細については、計画の基礎資料として本編とは別に整理しております。

加えて、計画を取りまとめるにあたり、8月12日に毎年の点検評価をお願いしている学識の先生と、教育振興ビジョンに基づく取組の検証の場を持ち、先の基礎資料をもとに、今後の施策や事業のあり方について、ご教示いただいたことを申し添えます。

次に、9ページ 第3章 本計画の目標についてです。

1の基本理念となる教育の長期的かつ普遍的な将来像（夢）には、みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～ を掲げ、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働して学び続けることができる環境づくりをめざすことといたしました。

この基本理念は、教育委員会事務局の若年層職員、また、小中学校に通う児童生徒を対象に、教育の未来を描き、語り、表現いただく機会を設け、取りまとめたものです。若年層職員による検討の様子、また、GIGA スクール端末を活用し、児童生徒からいただいた意見の内容を、別添の基礎資料（2）、（3）にお示ししておりますので、改めてご確認ください。

次に、10ページ 測定指標についてです。

教育振興基本計画では、次の3点の指標を予定しております。まず、1点が自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合、2点が人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合、3点が将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合で、子どもにとって最適な学び、育ち、健やかな成長をもたらす環境は、おとなにとっても心豊かに自己実現ができるまちにつながるの考えのもと、子ども、おとなを区分せず、学校教育、社会教育の全般において一貫した指標を掲げることといたしました。

なお、この3点は、小学6学年と中学3学年の児童生徒が受験する全国学力学習状況調査の結果をもって数値の算出を予定しており、数字ではかれない要素をも視野に入れ、丁寧な検証を重ねながら、年度を重ねるごと指標値の向上をめざしてまいります。

次に、11ページ 第4章 基本方針と施策では、基本理念を踏まえた6つの基本方針とそれに紐づく13の施策を学校教育、地域づくり、生涯学習、環境整備の順に整理しております。これらについて、体系図として表現したのが12ページの内容であり、左側に教育大綱、その右側に教育振興基本計画を置き、それぞれの相関関係を示しています。

また、教育大綱が子どもたちの育ち、学び、健やかな成長に重点を置き策

板谷教育総務課長	<p>定されている背景を踏まえ、教育大綱と教育振興基本計画の間におとなの学びを補完する社会教育の基本方針として、みんなの“やってみたい”も叶う環境を位置付け、取組みの方向性を示しております。</p> <p>次に、13ページ 持続可能な開発目標（SDGs）との関わりについて、持続可能な世界を達成するための17のゴール（目標）のうち、「4質の高い教育をみんなに」の達成に貢献すべく、他の目標とも横断的に関連を持ちながら、生涯を通じた質の高い教育の提供をめざすことを謳っております。</p>
植田教育長	<p>本件について、現段階では素案ということですが、11月中旬から予定しているパブリックコメントに向けて、来月の教育委員会定例会で原案の報告を予定しております。</p> <p>本日の定例会にてたくさんの意見をいただき、策定委員会での再検討に付したいと考えます。</p> <p>まず13ページまでの部分を前半としてご意見を賜り、その後事務局から追加説明をしていただき、再度ご意見を賜るという順番で進めたいと思います。それではよろしく願いいたします。</p>
山本教育長職務代理	<p>まず、策定委員の皆様には、これだけ多岐にわたる教育振興基本計画の素案を作成いただきありがとうございますございました。相当な労力と苦勞があったことと思います。</p> <p>読ませていただき、何点か気になるところがありますので、申し上げます。</p> <p>まず、1ページの計画の意義についてのところですが、この計画は本市の教育大綱と四條畷市総合計画のもとで策定されているという理解をしていますので、第6次四條畷市総合計画の制定あるいは、「個性をみんなを活かすまち」を基本理念に作られている教育大綱が計画の背景にあることを述べておいた方が良いのではと考えています。</p> <p>場所としては、中段の「四條畷市（以下「本市」という。）では」の次に、四條畷市総合計画と教育大綱の教育理念を述べてつなげれば良いと思います。</p> <p>次に、第2章の教育振興ビジョンに基づく取組みの検証については、本市が長年取り組んできた教育計画ですので、今回の計画策定にあたり、評価を取り入れて頂いたのは非常にありがたいですし、このような検証は必要であると考えます。</p> <p>これによって、教育振興ビジョンから教育振興基本計画に続いていくという連続した教育の流れが伝えられるのではないかと考えます。</p> <p>ただし、そのなかで何点か気になることがあります。</p> <p>まず、学校教育分野において、児童・生徒学力向上3ヶ年計画は教育振興ビジョンにおいても大きな計画であったと考えています。</p> <p>従って、第3期にまで深まりとありますが、深まった中身の効果検証が必</p>

	<p>要であると考えています。この部分にどのような成果があったのかということに記載する方が良いかと思えます。後ろにも、G I G Aスクール構想、新型コロナウイルス感染症により学びの姿が大きく転換したと記載されていますが、これはあくまでも外的な要因であり、前提には3ケ年計画による取組みがあるので、ぜひ、3ケ年計画の効果検証を追記していただきたいと思えます。</p> <p>次に、英語教育について、本市は他の市町村に先駆けて取り組んできましたので、その内容を施策として記載すべきと考えます。参考資料の英語教育の推進のところに、D R E A Mから始まって実用英語技能検定の補助、あるいは小学校の専属A L Tの配置などが記載されていますので、これらを客観的に記載すべきと考えます。現状の記載では、中学校教員からの評価の声となっていますので、あくまでも主観的な内容であり、施策としての取組みを入れた方が分かりやすいと考えます。</p> <p>最後に、社会教育について、多岐にわたり様々な活動をされていますが、公民館の活動が記載されていません。参考資料の教育振興ビジョンの検証シートの中に、令和2年度に80団体が公民館活動を行っている実績がありますので、このような積極的な取組みについての記載を追加された方が良いでしょう。</p>
板谷教育総務課長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>まず、計画の背景については、ご指摘の通り、もう少し本市の取組みに着目した記述を追加したいと思えます。</p>
神本公民館長	<p>社会教育分野の公民館の部分について、ご意見の通り追記したいと考えています。また、今年度、情報化社会の対応としてWi-Fi環境の整備とオンライン講座を始めますので、その部分も追記したいと考えます。</p>
花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育センター長	<p>英語教育についてもご指摘いただいた内容をもとに記載内容を検討したいと思えます。また、児童・生徒学力向上3ケ年計画の効果検証についても内容に加えたいと思えます。</p>
佃委員	<p>この間、コロナ禍において多忙ななか、策定委員の皆さんにはご苦勞をおかけし、実際にこのように分かりやすい字体、そしてトータルでまとまったボリュームのある素案をまとめて頂いたことに感謝を申し上げます。</p> <p>策定の過程において児童生徒の意見を聴取されたり、未来教育会議など、色々な場所でご意見を伺ったりということを含め、大変だったと想像しながら、決定まで更なる意見交換を深めていけたらと思えます。</p> <p>1番うれしかったのは、13ページにSDGsをしっかりと記載していた</p>

だいている部分で、これからの教育に対するSDGsの関わりを記載いただいたことはとても良いことだと思いました。

それでは、まず2点の質問をさせていただきます。

9ページの基本理念は本当に大事な部分だと思います。おそらく児童生徒の意見を取りまとめ、そして庁内の若年層職員の意見など、素敵な意見をもとに掲げてくださったと思いますが、みんなの学びが叶うまちというフレーズについて、学びというものは手段であって、最終的な夢を叶えるという目的があるならば、「みんなの夢が叶うまち」という表現の方が良いと思いました。

それに続く、「生涯 学び 夢 挑戦」も、それぞれ単語が並んでいますが、リズムを考慮し、「学び 生涯 夢へ挑戦」でも良いのではと思います。

2点めは10ページです。今、全国学力学習状況調査から3点の測定指標をあげられ、この内容については私も大賛成ですし、それぞれで意味がある測定指標であると思います。

しかし、おとなというところに視点を置いたとき、社会教育に視点を当てたときに指標が不足していないか、市民意識調査等から何かひも解くことはできないのかと思いました。

また、公表されるときには初年度値は必ず入れておくべきだと思います。

それが令和3年度かどうかは分かりませんが、その点について工夫をされてはどうかと思います。

最後に軽微なことではありますが、1ページの計画の背景と趣旨の中段、四條畷市から始まる段落の2行め部分で、教育振興ビジョンと合わせるためにも、「家庭、地域、学校」の部分について、「、」ではなく「・」であると思いますので、その部分も検討されてはどうかと思いました。以上です。

板谷教育総務課長

基本理念に関し、ご意見ありがとうございました。

みんなの学びが叶うまちの「学び」という言葉を使っている部分ですが、教育の最上位計画であるということを意識のうえ、「学び」という言葉をあげています。

加えて、子どもたちに対し、将来の教育に関する夢を聞いた際の回答を見ると、学校の学びなかで、自分の興味があることをどんどん追求したい、自分で学びを選択したいという意見が非常にたくさん出てまいりました。

また、GIGA スクール端末が学校に入り、子どもたちは興味をもって活用してくれているようで、もっとパソコンを使って勉強をしたいなど、学びの方法についてもたくさんのニーズが出てきました。若年層職員からも、学びたいと思った時に身近に学べる環境があればうれしいという意見があったこと等も踏まえ、「それぞれが希望する多様な学びが叶うまち」という思いを込めて、「学び」という言葉を入れさせていただきました。

指標に関しては、策定委員会でも、おとなに関連した指標はないかという

<p>竹内委員</p>	<p>意見があり、市で行っているアンケート調査の項目などを探してみましたが、社会教育や生涯学習の総合的な推進度合を計れる内容が見つからないのと、先ほどの説明のとおり、子どもたちの豊かな学びが実現しているまちは、おとなにとっても学びが充実しているまちであるという議論の過程があり、本案を上げさせていただいた次第です。</p> <p>初年度値については、ご意見のとおりと考えますので、最新のものを掲載したいと考えます。</p> <p>基本理念についてですが、子どもたちが描く教育の未来ということで、児童生徒の声を反映しており、子どもたちを大事にしているということが伝わってきます。今までは学校単位でこのようなアンケートを実施したことがありますが、全市的にまとまったものはなかったと思います。</p> <p>子どもたちの願い、夢を実現するには、昔から継続は力なりというように、おとなになっても学び続けるという継続性が少しでも反映されると良いと思いました。</p> <p>また、計画期間が14年間で組まれており、途中で見直すということですが、見直しの部分を点線で区切るのではなく、もう少し分かりやすいよう空欄を空けるなど、工夫された方が良いと思いました。</p> <p>それから、指標に関しては、4月実施の全国学力学習状況調査を活用するというので、年1回の調査になると思いますが、年度末にもアンケートを取るなどして子どもたちの変化を測定できるように考えてみてはどうかと思います。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>計画の見直しの部分について、意図が伝わりやすくなるよう、もう少し表記の方法を検討いたします。</p> <p>指標については、いつ頃、何回とるかなど、改めて検討してまいりたいと思いますが、数字では測れない子どもたちの様子なども要素に入れながら、検証を行ってまいりたいと考えています。</p>
<p>河田委員</p>	<p>内容的なものではなくて、漢字のふりがなについての意見です。12ページの2施策体系のところを見て気がついたんですが、2のふりがな表記と表のところのふりがな表記に「しさく」と「せさく」の両方がふられています。どちらが正しいのか調べたところ、「しさく」と読むのが正しい読み方だそうです。よく似た言葉とか、同音異義語としての混同を避けるため、慣用読みとして「せさく」という読みもあるそうですが、教育大綱を見てみると、ふりがな表記は「しさく」となっています。教育大綱を参酌して作られているのであれば、そちらに揃えるのがいいのではないのでしょうか。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>現在、庁内においても「しさく」と「せさく」が混在しており、本市の最</p>

<p>植田教育長</p>	<p>上位計画である第6次総合計画の中で「せさく」というふりがな表記をしていることから、そちらに合わせた次第です。</p> <p>おっしゃるとおり、教育大綱では「しさく」という表記になっておりますので、今後、庁内でどういうふうに統一していくのかを確認し、もう一度検討したいと思います。</p> <p>13ページまでについて、その他ご意見ありましたらお願いします。</p>
<p>山本教育長職務代理</p>	<p>7ページの教育振興ビジョンに基づく取組みの検証の就学前教育のところですが、本市の場合は民間のこども園との連携に重点を置いてきた経過があります。それをより明確にするため、民間施設との連携の項目を入れてはどうかと考えます。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>民間園との連携については、これまで本市が大切に進めてきた部分です。ついては、その経過が明確となるよう、改めて検討させていただきます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>その他ご意見等いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、14ページ以降について、再び事務局から説明をお願いします。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>14ページから27ページでは、基本方針とそれに紐づく施策ごと、現状と課題、施策の方向性を示し、それらの具体的、短期的な取組みを示す分野別計画やアクションプランを整理しております。</p> <p>次に、28ページ以降に計画の参考資料として、(仮称)教育振興基本計画策定委員名簿、審議経過と意見聴取の流れ、(仮称)教育振興基本計画策定委員会設置要綱をまとめております。</p> <p>なお、審議経過と意見聴取については、本日以降の流れを追記していくことになります。</p> <p>ここまでが計画として取り扱う内容の説明です。</p> <p>その後ろ、計画策定までに係る基礎資料については、本編の計画とは分けて整理し、コンパクトで手に取りやすい計画をめざします。</p> <p>加えて、識字施策を推進する教育委員会の最上位計画として、読みやすいUDフォントの採用、ふりがな表記を行い、識字の取組みの浸透を図ってまいります。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いてご意見を賜りたいと思います。</p>
<p>山本教育長職務代</p>	<p>14ページ以降の四條畷市がめざす教育について、1点は現状と課題が非</p>

理者	<p>常に多岐にわたっており、少し読みづらかったです。市の現状がこれであり、課題はこれであるということをもう少しコンパクトに書いてもらえれば分かりやすいと思いました。</p> <p>そういう意味で言いますと、22ページの生涯学習教育の部分は、いずれも課題の列挙になっていると思います。最後の文字が、「求められます」、「必要となっています」、「必要です」となっていますので、図書館など、本市として積極的な取組みを進めている部分については、具体の事業を挙げて記載してはどうかと思います。</p>
田中図書館長兼主任兼田原図書館主任	<p>図書館部分の記載が課題のみの表記になっていますので、ご指摘のとおり現状を含めた内容に変更したいと思います。</p>
板谷教育総務課長	<p>他の箇所につきましても、もう少し整理したいと思います。</p>
山本教育長職務代理者	<p>図書館の話題が出ましたので、21ページで気付いたことを申し上げます。生涯学習においては、図書館と文化、スポーツ等が非常に大事な側面ではないかと思っております。</p> <p>図書館では、市民が関心のある内容について、それぞれの課題解決につながるものを提供するのが使命ではないかと思っています。</p> <p>従って、市民が読書に親しみ、自己の課題解決に役立てるのを支援するという表現が必要と思います。</p> <p>現在の表記では、若者の読書離れに特化していますので、学びを支援するという意味で、市民感覚で読書活動を捉える視点があっても良いのではないかと思います。</p>
田中図書館長兼主任兼田原図書館主任	<p>図書館で最も力を注ぐ子ども読書活動を中心に記載していますので、ご指摘いただいた部分について、量的なことも勘案しながら、盛り込むべき内容を改めて検討したいと思います。</p>
佃委員	<p>細かいことばかりかも知れませんが順に申し上げたいと思います。</p> <p>まず、14ページ、現状と課題の最初の段落の最後の方に、「家庭学習の習慣・生活習慣の改善、小中連携・一貫教育の推進、フォローアップ対策」とありますが、家庭学習の習慣・生活習慣の改善の部分で、改善という言葉が両方にかかるのであれば、家庭学習の習慣の「の」は必要ないと思います。もしくは、「家庭学習習慣の定着」でも良いと思います。</p> <p>また、その後のフォローアップ対策についても具体の説明がないので、もう少し丁寧に記載されてはどうかと思いました。</p> <p>それから15ページ、一番最後の「早期から本物の英語に慣れ親しむ機会</p>

	<p>を設け、身近な事柄について外国語を使ったコミュニケーション能力の育成を図ります。」のところが少しわかりづらいので、表現を改めていただければと思います。</p> <p>次の16ページの2項目め郷土教育のところは、郷土学習にしてはどうかと思います。</p> <p>19ページの3行め、持続可能な社会の創りての「創りて」という言葉に引っかかってしまいました。行政用語として「社会の担い手」という言葉を使いますが、あえて「創りて」とされる理由がありましたら教えていただきたいです。</p> <p>さらに、その下の中央教育審議会の答申では、今後も新しいものが出てくることから、何年度または第何次を入れた方が分かりやすいと思いました。</p> <p>最後、25ページ2行めに、施設、設備ごとの老朽化具合等とありますが、老朽化状況という方がやさしい言葉になるのではないかと思います。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。事務局からございませんか。</p>
花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育セ ンター長	<p>家庭学習の習慣の表現については、今ご指摘いただいた内容で改めて検討をしてみたいと思います。</p> <p>郷土教育については、教育振興ビジョンの中で郷土教育と表現しているので、こちらの表記のままでいきたいと思います。</p>
竹内委員	<p>15ページのところですけれども、一番上のところで、「確かな学力を育むには国語力が必要であり、国語力の育成には、読む力が不可欠です。」とありますが、読む力だけでなく、話す、書く力もあってこそ、コミュニケーション能力の向上に繋がると思いますので、話す力、書く力についても明記するのが良いと思います。</p> <p>次に、17ページの上の方、「すべての子どもが学びやすい授業づくりに努めています」というところで、繰り返し丁寧な基礎基本の徹底という文言がどこかに入るといいなと感じました。</p> <p>それから、19ページの施策の方向性のところで、すべての学校にコミュニティ・スクールを導入とありますが、本市の場合は、中学校区ということだと思います。</p> <p>25ページ、施策の方向性の最後に、「安全教育の充実に努めます。」と明記していますが、もう少し詳しく書いて欲しいと思います。安全教育は、安全学習と安全指導という二つに分かれ、また、各学校には学校安全計画があり、年間を通して実施すると謳われています。冬の避難訓練とか、防災教育とか様々な観点があるので、もう少し詳しく書いて欲しいと思います。</p>
木村教育部次長兼	<p>ご意見ありがとうございます。まず1点めのコミュニティ・スクールのこ</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>とですけれども、基本は1学校区について委員が5人であり、2以上の学校について1の協議会を置く場合を規則に書かせていただいているので、すべての学校でということの問題ないかなと思っています。</p> <p>佃委員の「担い手」と「創りて」につきましては、担い手という表現もよく使いますが、さらに踏み込み、自分たちで創っていくという思いを込めて、「創りて」とさせていただいています。</p> <p>安全教育につきましても、防災の観点や命を守るという観点について、もう少し追記させていただこうと思います。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>14ページの現状と課題の1行め、「主体的に考え行動する「生きる力」を育むには、実現に向けた教育活動を」という部分は、「〇〇の実現に向けた教育活動を」とする方がいいのではないかと思います。</p> <p>それから、その下にSociety 5.0の部分でプログラミング教育の記述がありますが、注釈が必要と思います。</p> <p>15ページの英語教育の説明については、分析だけで市の現状が書かれてません。市が大事にしてきた部分、例えば4技能を育成するための授業改善などの取組みを書くべきだと思います。</p> <p>19ページの先ほど佃委員が言われた「創りて」の話ですが、中央教育審議会の答申に「創りて」という表現があります。一方で、ESD教育ではSDGsの「担い手」という表現がありますので、どちらでもいいような気はします。</p> <p>持続可能な社会の創りてとする教育委員会の意図は、文章の中に入っていると思います。創造するという意味を入れたいのだと思いますが、問題なければいいかなと思います。</p> <p>それから、同じページですが、家庭、地域、学校の連携となってますので、この部分について、コミュニティと家庭の教育力の向上というのをどこかに入れる必要があると考えます。</p> <p>ただし、家庭の教育力については、触れるべきところが難しく、例えば14ページ、基本方針1で触れることも可能とは思いますが、教育大綱のなかで、おせっかいが生きるという表現で基本方針を立てていますので、家庭教育を支援する体制づくりの視点がいると思います。</p> <p>それともう1つ、子どもの貧困対策は、教育委員会も施策として取り組んでいく必要がある部分と考えますので、基本方針1、あるいは3のところでもいいので、家庭教育を支援する体制づくりがいるのではないかと思います。</p> <p>続いて、青少年の健全育成については、地域の教育コミュニティーづくりに入れるのか、ライフステージに応じた継続的な支援に入れるのか、もう一度検討する必要があると思います。ライフステージに応じた継続的な支援の中で青少年の問題を考える部分がありますので。</p> <p>次に、基本方針3に関し、分野別計画が全くないのが気になります。予定</p>

<p>花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育セ ンター長</p>	<p>でも良いので何か想定しておく必要があると思います。</p> <p>また、基本方針3の施策の方向性に、「豊かな人間性を育み、社会で生きる力と創造力を身につける取組みを行います。」とありますが、施策としての具体性があまり感じられないので、もう少し具体的な記述が必要と考えます。</p> <p>最後に、基本方針5のところ、先ほど竹内委員が言われた部分とも関係がありますが、一番最後のところに、「昨今、登下校時の児童生徒の列に車が接触する痛ましい事故が後を絶ちません。」という表現がありますが、教育振興基本計画の中にこのような表現、内容が必要なのか、少し疑問に感じました。</p> <p>基本方針1について、プログラミング教育に関する注釈の追加やその他の表現内容をもう少し精査してまいりたいと思います。</p> <p>あと、英語教育についても、現状の取組みを追記したいと思います。</p>
<p>河田委員</p>	<p>基本方針1の施策の方向性に、「ICT利活用計画に基づき、1人1台端末を活用した個別最適化した協働的な学びのある授業をめざします。」とありますが、表現が少し分かりにくいと感じました。個別最適と協働的を分けて、それぞれの学びとして書かれていた方が理解しやすいように思います。この表現が14ページの下にも書かれているので、どちらも分かりやすくしていただければと思います。</p> <p>基本方針1の施策については、他の基本方針と比べ、様々な事柄を含む幅広いものとなっているので、方向性や取組みを詳しく示されると分かりやすいと思いました。</p>
<p>花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育セ ンター長</p>	<p>個別最適化と協働的な学びについて、国の表記等を参考に、もう少し分かりやすい表現に改めたいと思います。</p>
<p>佃委員</p>	<p>基本方針2の現状と課題のところ、合理的配慮や基礎的環境整備ということが述べられていますが、施策の方向性では支援教育に関する内容が全く触れられていないように思います。教育振興ビジョンでは、支援教育の進化ということで、ユニバーサルデザインによる授業、集団づくり等、色々な内容が掲載されており、とても大事な部分だと思うので、施策の方向性の追記が必要と考えます。</p> <p>基本方針5の児童生徒の通学の安全についての記載は四條畷市がこれまで何の対策もしてこなかったとも読めてしまうので改めるべきだと思います。</p>

木村教育部次長兼 学校教育課長	基本方針2に支援教育の観点を入れさせていただきます。ありがとうございます。
山本教育長職務代 理者	基本方針6の施策のうち、「教員の資質能力の向上」と「持続可能な指導体制の整備」が体系図の順番と逆転しています。何か意図がありますか。
木村教育部次長兼 学校教育課長	体系図と整合を図りたいと思います。
竹内委員	基本方針6の学びを支える教育体制の整備の教員の研修についてですが、個人の研修はもちろん、教員同士の教え合い、研修のようなものを行うことで学校全体の力が向上し、まとまった形での指導体制が生まれると思うので、個の研修と学校全体の研修というような形で両方が含まれていくと、もう少し効果のある研修になっていくと思います。
木村教育部次長兼 学校教育課長	ありがとうございます。ご意見を踏まえ改めて検討させていただきます。
山本教育長職務代 理者	基本方針5の施策に持続的で魅力ある学校教育の推進というところがありますが、施策の方向性にそのような内容が見あたりません。安全教育が入っていますが魅力のある学校教育ということであれば、施設の安心安全や、いじめの未然防止、貧困の問題など、学びのセーフティネットの充実が必要でないかと思います。 また、全体を通じ、SCやSSWに関する記載がありませんが、従前から教育センターで不登校児童生徒への対策に取り組んできた経過を考えると、それらの継続という意味で教育センターの事業を記載しても良いのではないかと考えました。
板谷教育総務課長	持続的で魅力ある学校教育の推進では、教育環境の向上や持続性に通じる施策として、小中一貫教育や学校の適正規模、適正配置を挙げさせていただいております。 また、SCやSSWについては、ご意見を踏まえ、いずれかの方針に追加できないか検討させていただきます。
山本教育長職務代 理者 板谷教育総務課長	今後のスケジュールについて教えていただけますか。  本日の会議を受け、10月中に市長との総合教育会議を開催のうえ、計画の内容を共有し、意見交換をお願いしたいと考えています。その後、原案として成案化し、11月中旬から1ヶ月間のパブリックコメントを実施し、こ

<p>植田教育長</p>	<p>ちらの意見を踏まえ、年明けの策定を予定しています。</p> <p>その他確認することございましたらお願いいたします。</p> <p>本件つきましては大変貴重なご意見の数々ありがとうございました。</p> <p>これをもとにブラッシュアップを図り、原案の策定に向けて取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは次に移ります。</p> <p>報告第16号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。</p> <p>事務局から本件の内容説明を願います。</p>
<p>木村教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>四條畷市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則を制定したことに伴い、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例について、学校運営協議会委員の報酬を加え、市議会9月定例議会で可決されたことを報告します。</p> <p>先月の定例会において、四條畷市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定を議決いただきました。これにより、学校運営協議会委員は校長が作成する基本方針の承認等の一定の権限を持つことになり、特別職非常勤の地方公務員として任命されることとなります。このことから、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の別表の区分及び報酬額に学校運営協議会委員の報酬を加え、9月の本会議で議決をいただきました。この条例制定に伴い、同定例議会に補正予算を上程し、報償費から報酬へと予算を振り替えたことについても併せて報告いたします。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。確認質問等ありましたらよろしくお願いたします。</p> <p>それでは次に移ります。</p> <p>報告第17号 令和4年度大阪府新学力テスト（愛称、小学校すくすくウォッチ）の参加についてを議題といたします。</p> <p>事務局から内容を説明願います。</p>
<p>花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育センター長</p>	<p>令和4年4月18日から26日に実施される大阪府新学力テストについて、市立各小学校が参加する旨をご報告します。詳細については、大阪府教育庁が示した別添要項（案）をご覧ください。</p> <p>趣旨、目的は、子どもたち一人ひとりが学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることとされています。この目的を達成するため、子ども、家庭、学校、市町村教育委員会、大阪府教育委員会は本テストを実施するとともに、テスト及びアンケートの結果や分析等から、取組みの充実に努めていきます。</p>

	<p>テストの実施内容については、第5学年は国語、算数、理科及び教科横断的な問題、第6学年は教科横断的な問題、併せて両学年ともに児童アンケート、また、教員には授業や指導及び学校や学級に関する教員アンケートを行います。</p> <p>テスト及びアンケート結果の活用につきましては、学校は児童及びその保護者に説明するとともに、授業改善及び集団づくりの取組みを進めます。</p> <p>また、市教育委員会としても、教員研修や学力向上担当者会等を開催するなど、本テストの趣旨、目的に基づいた取組みを進めるとともに、教育施策および教育の改善を図ってまいります。</p>
植田教育長	<p>本件につきまして質疑等ありましたらお願いいたします。</p>
佃委員	<p>今年度、コロナ禍のなか、初めて小学校すくすくウォッチが行われ、現場では不安や戸惑いもあったことと思います。そろそろ結果が出た頃と思いますが、学校現場の反応や先生方のお声にはどのようなものがありましたか。</p>
花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育センター長	<p>結果については分析の途中ですが、全国学力学習状況調査の質問紙にもコロナ禍での不安に関する質問項目があり、本市にも不安を感じている子どもたちが一定いることが分かりました。</p> <p>学校の状況については、未だ十分に把握できていない状況ですので、今後、校長会等を通じ、意見交換してまいりたいと考えています。</p>
佃委員	<p>子どもたちの点数とか平均点に関心がいつてしまうかも知れないのですが、そうではなくて、先日、植田教育長がこのテストについて、今後の学力を測るための良問であると褒めておられたくらい全く今までの価値観とは異なる内容ですので、是非とも先生方に体験いただき、このような問題を作れるくらいの思いで授業改善にいかしていただければと思います。</p> <p>また、教育委員会においても、研修や学力向上の担当者会で深く掘り下げていただけたらと考えます。</p>
花岡学校教育課 人権教育・教科指導 担当課長兼教育センター長	<p>ご意見ありがとうございます。すくすくウォッチの中に教科横断的な問題として、わくわく問題というのがあり、これからの子どもたちに求められる総合的な学力を測れる内容になっていますので、これを解くだけでなく、このような視点を授業に取り入れていけるよう、活用してまいりたいと考えております。</p>
植田教育長	<p>その他、確認質問等ありましたらお願いいたします。 それでは、その他の案件に移ります。</p>

木村教育部次長兼  
学校教育課長

8月20日以降の新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応について、机上配布させていただいた別紙のとおり報告します。

小中学校の教育活動については、9月30日まで緊急事態宣言が延長されたことから、引き続き感染症対策を徹底し、継続しています。

授業については、分散登校や短縮授業は行わず、通常形態を継続のうえ、毎日の健康観察や基本的な感染症対策を徹底し、感染リスクの高い活動は実施しない、感染拡大により不安を感じて登校しない児童生徒等については十分な学習支援を行うこととしています。

次に、修学旅行等の泊や府県間移動を伴う行事については、原則延期としました。

次に、文化祭や体育祭等の学校行事については、飲食物の提供や騎馬戦などの感染リスクの高い活動は実施しないとしました。

部活動については、原則休止とし、公式大会への出場等の場合は感染防止策を徹底したうえで活動時間を短縮して実施、この場合も、感染リスクの高い活動は実施しないことといたしました。

併せて、保健所と協議し、保健所の疫学調査を補佐するための資料作成を学校で行っており、結果、疫学調査が早く進み、学校臨時休業期間が最小限に抑えられている状況がございます。

学校の臨時休業につきましては、一覧のとおりであり、8月末から9月初めにかけて多数の学校の休業がありました。

学校施設については、記載のとおり小中学校運動場及び旧東小学校の運動場、体育館は緊急事態宣言の期間延長に伴い、貸出しを行っていない状況でございます。

社会教育施設の屋内外施設は8月1日から貸出しを20時まで制限しています。

各種イベントにつきましても、市の主催または共催事業は原則中止または延期としたところでございます。

植田教育長

その他、事務局からありましたらお願いいたします。

それでは、本日本日予定の案件の審議はすべて終了いたしました。

ここで、9月30日をもって退任されます竹内委員にご挨拶をいただきたく存じます。よろしくお願いいたします。

竹内委員

任期満了まであと少しありますが、4年間を無事に終わらせていただくということで、教育長をはじめ、教育委員の皆さん、そして、事務局の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

私は38年間の教員生活を終えた後、児童育成アドバイザーとして、ふれあい教室の仕事を約7年、その後、教育委員としての仕事を4年、おおむね50年という長きにわたり教育に関わらせていただき、本当にありがたく感

<p>植田教育長</p>	<p>謝しております。</p> <p>教育委員としては、学校再編整備という大きな課題から始まりました。</p> <p>また、教科書採択では休日の会議があり、昼食をはさんで終日の会議、大変疲れたのを覚えております。この会は、一つ終わったら、また一つ違うことが始まるというように、繰り返しの議論を重ねていく場所であるように思います。どうぞ皆さん、体に気をつけられまして、これからの四條畷の教育のためにご尽力いただきたいと思います。</p> <p>簡単ではありますが、お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。そして、竹内委員お疲れ様でございました。それでは、これもちまして定例会を閉会いたします。どうもお疲れ様でございました。</p>
--------------	---

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和3年11月24日

四條畷市教育長 植田 篤司

四條畷市教育委員 河田 文